

■計画の性格と役割

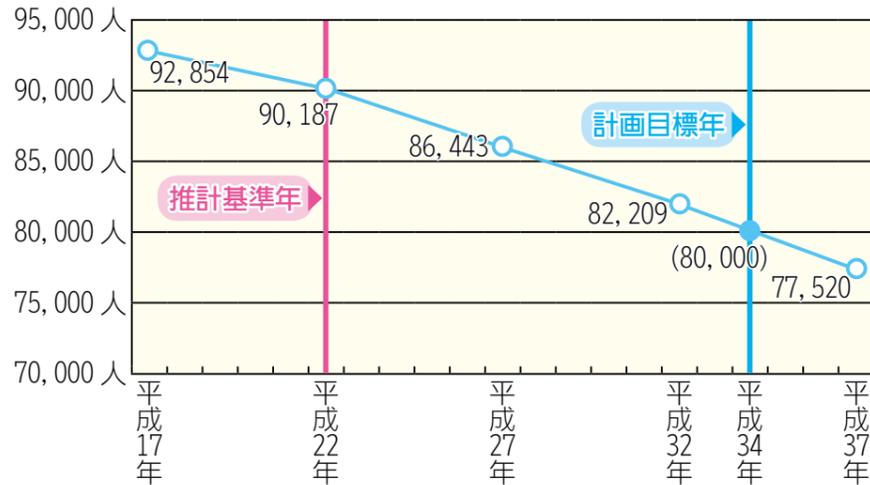
本市は、平成19年にまちづくりの最高規範となる「四国中央市自治基本条例」を定め、市民・議会・市が一体となった協働によるまちづくりに取り組んでいます。

本計画策定にあたっては、市民参加によるコンテ部会・デザイン会議による議論の積み上げとともに、市民アンケート調査や本市に関わりを持つふるさとアドバイザーやパートナーシップの方々からの意見を求め、さらに今後の担い手である高校生によるユースミーティングを開催し、若い人の目から見た今後のまちづくりに対する考え方などを議論してきました。一方、市においては現行計画を評価し、これまでの各種施策の達成状況や残された課題などについて検証しました。これら各種議論・作業の積み上げを基に、本計画が策定されています。

今後の人口の見通しとまちづくりの課題

■本市の人口動向と将来の見通し

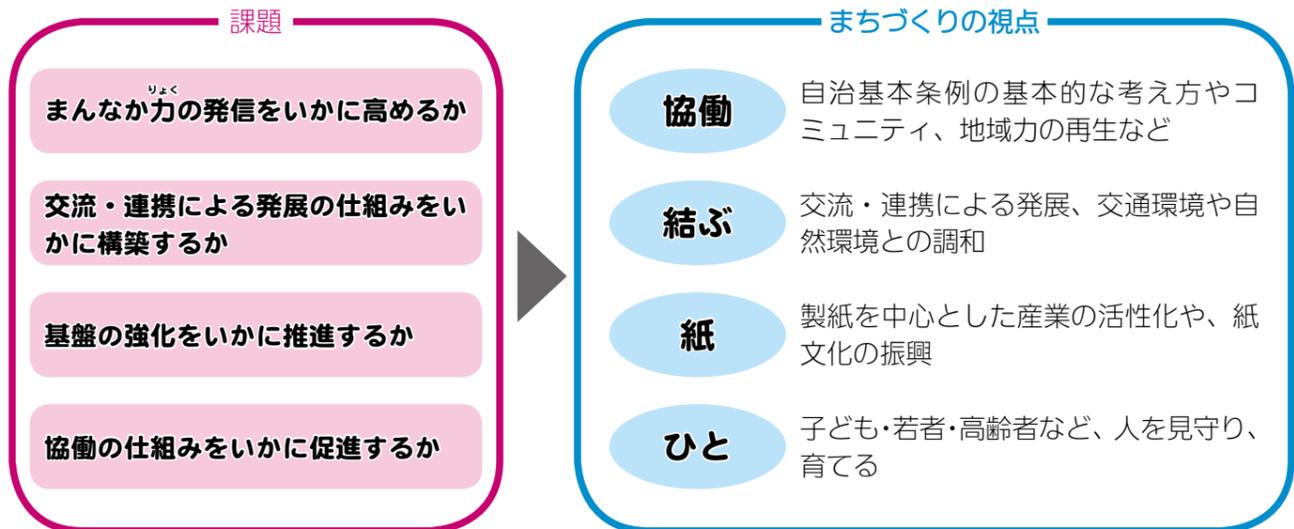
本市の人口は減少傾向が続き、平成22年の国勢調査人口は90,187人となっており、本計画の目標年である平成34年には約80,000人になると予測されます。本市はこれまでさまざまな子育て支援や雇用対策を図ってきましたが、少子高齢化の波は本市の人口動向にも大きな影響を与えています。



※人口推計は、国勢調査の平成2年～平成22年までのデータを基に、コーホート法（変化率法）による推計です

■まちづくりの課題

各種調査や、コンテ部会・デザイン会議などの議論の積み上げから、今後の課題とまちづくりの視点は、次のように集約されます。



第二次四国中央市総合計画

【問い合わせ】 経営企画課 28-6005

本市は、平成16年4月の合併後、平成17年9月に「第一次四国中央市総合計画」を策定し、長引く景気の低迷による厳しい社会情勢の中においても「日本一の紙のまち」としての存在感を示してきました。また、子育て支援や協働のまちづくりなどの施策にも積極的に取り組み、一定の成果を上げてきました。しかしながら、目指してきた都市像の実現には道半ばの状況です。

このような中、第一次総合計画が10年間の計画期間の終期を迎えることから、この度「四国のまんなか 人がまんなか ～人を結ぶ 心をつなぐ あったか協働都市～」を将来都市像に掲げる「第二次四国中央市総合計画」が、多くの市民参画を得て策定されました。今後は、市民が主役の市民自治の確立を目指し、市民・議会・市のさらなる協働体制の推進を図るべく、それぞれが主体性を持つとともに、連携し合いながら行政運営を進めていきます。

なお、第二次四国中央市総合計画は、4月1日から市ホームページ・各庁舎市民窓口センター・各図書館・公民館などで閲覧できます。

■総合計画とは

総合計画とは、まちづくりにおいて最も基本となる計画で、市の行政運営を総合的かつ計画的に進める指針となるものです。この「四国中央市総合計画」は、基本構想・基本計画・年次計画の3本柱で構成され、本市が目指す都市像を展望し、それを実現させるための基本方針を定めたものです。

■計画の構成と期間

計画の構成

基本構想

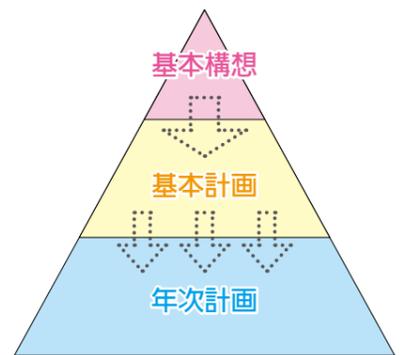
本市の長期的視点からの将来像（目指すべき都市の姿）、及びそれを達成するために必要な施策の大綱を明らかにするものです。基本構想の計画期間は、平成27年度から平成34年度までの8年間とします。

基本計画

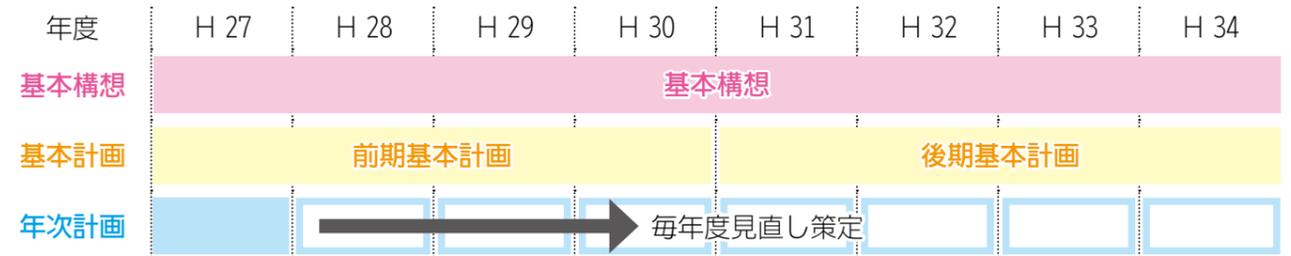
基本構想に掲げる将来像を実現するためのもので、前期基本計画（平成27年～30年）として、今後4年間で取り組むべき主要な施策について、その展開の考え方を示すものです。また、平成31年から34年の後期基本計画については、今後の社会経済環境の変化や前期基本計画の施策の進捗状況などを考慮した上で策定するものとします。

年次計画

基本計画に示された主要事業の具体的な実施内容を明らかにし、本市における毎年度の予算編成・組織機構・人事計画などの運営方針となるものです。基本計画に掲げられた事業の実効性を担保するため、財政計画との整合を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。計画期間は各年度とし、各年度の事業の評価・検証を行いながら見直しをする「PDCAサイクル」により事業の進行管理を行うこととします。



計画の期間



前期基本計画

「四国のまんなか」「人がまんなか」の2つの枠組みは、緊密につながりながら「人を結ぶ 心を結ぶ あったか協働都市」を実現していく関係にあります。

「四国のまんなか」のまちとして

「まんなか力」を発揮して、まちを輝かす

環境資源を宝とするまちづくり

- (自然、環境、資源・エネルギー)
- 美しい自然環境の保全と活用
- まちの緑や公園の整備
- 良質な水の安定的な確保
- 環境効率性の高い循環型社会の形成

活力の創造と再生のまちづくり

- (産業政策)
- 総合的な地域産業の振興
- 紙産業を核とする産業集積の推進
- 自然活用型産業の高度化
- まちに活力を与える地域商業の振興
- 地域の魅力を活かす観光・物産の振興

快適な集いと定住のまちづくり

- (土地利用、都市基盤、安全)
- 市ぐるみでのシティ・セールスの展開
- 未来につながる都市整備の推進
- 円滑な交流基盤の整備
- 魅力ある定住環境の整備
- 防災・減災対策の強化
- 防犯・交通安全の強化

「人がまんなか」のまちとして

「一人ひとり」を大切に、人を輝かす

安心とぬくもりのまちづくり

- (健康、福祉)
- 福祉社会の充実
- 健康づくりの推進
- 健やかな子育て・子育ての応援
- 安心で充実した高齢期の応援
- ともに生きるまちづくり

人と文化を育むまちづくり

- (教育、文化)
- 人権文化のまちづくり
- 学びのネットワークの構築
- 一人ひとりの成長を支える学校教育の推進
- 地域文化の継承と創造
- 生涯学習・生涯スポーツによる人づくり・まちづくり

市民自治と協働のまちづくり

- (協働、行財政)
- 市民自治の促進
- 協働によるまちづくりの推進
- 健全な行財政運営の推進
- 市民サービスの向上と開かれた市役所づくり
- 広域連携の推進

協働推進重点プロジェクト

協働推進重点プロジェクトとは、今後協働で取り組むべき重点課題を見出し、市民・議会・市がそれぞれの役割を発揮しながらこれを解決していく複合的・分野横断的な事業であり、その実施を通じて分野別計画の効果的な推進を狙うものです。この戦略は、地方創生に対応する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても位置づけ、3つのプロジェクトで構成しています。

共通課題 少子高齢化の進展と人口減少社会の到来

まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口減少対策プロジェクト

多様な「結び」で人口減少抑制へ

チームしこちゅ〜プロジェクト

交流と連携で宝を磨き輝かせるまちへ

行政改革推進プロジェクト

行政の地域経営力の向上へ

基本構想

まちづくりの理念と将来像

■まちづくりの理念

市民一人ひとりのしあわせづくりの応援

本市の誕生以来、私たちは次のように考えて、新しいまちづくりを進めてきました。

まちづくりとは、そのまちに住み、しあわせな暮らしを実現しようと一生懸命に生きている市民を支え、応援することにほかなりません。

市民が主体となったまちづくりを進めていくことが大切であり、市民一人ひとりのしあわせ、市民一人ひとりの笑顔があって、はじめてまち全体が活力に満ちて発展していくものといえます。

こうした考えから、新たなまちづくりの理念を「市民一人ひとりのしあわせづくりの応援」とし、いつの時代にも市民が健康で、しあわせを感じられる質感の高いまち、そして、時代に対応してたくましく発展するまちづくりを目指します。

(第一次四国中央市総合計画基本構想より)

本市は、第一次総合計画で打ち立てた理念を継承し、市民・議会・市が手を取りあって、市民一人ひとりのしあわせづくりを応援するまちづくりを進めます。

■将来像

四国のまんなか 人がまんなか ~人を結ぶ 心を結ぶ あったか協働都市~

「四国のまんなか 人がまんなか」のまちとして「まんなか力」を発揮

本計画では、第一次総合計画で描いた都市像を発展的に引き継ぎ、「まんなか」という位置の可能性、人を主役とする社会の可能性を「まんなか力」として戦略的に発揮していくことを目指します。

- ▶ 四国のまんなか 四国の中心に位置するまちとして、交流力・求心力を発揮
- ▶ 人がまんなか 市民が主役のまちとして、協働力・定住支援力を発揮

「人を結ぶ 心を結ぶ あったか協働都市」を目指す

「まんなか力」を発揮して今後目指すのは、県境を越えた交流で多くの人が集い、地域・産業を支える多様な市民がつながって活力が生まれるまち、それぞれの地域が一つの市としての一体感でつながり、人々が地域の中で心を通わせ、支え合うまちです。そんな、活力とやさしさを兼ね備えたあったかなまちを、市民・議会・市の協働でつくっていくことを目指します。

人を結ぶ

- 人が集い、県境を越えた交流が豊かに展開するまちに
- 地域・産業を支える多様な市民がつながって活力を生むまちに

心を結ぶ

- 一つの市としての一体感でつながり、あったかな郷土愛が育まれるまちに
- 地域の中で心を通わせ、地域コミュニティが元気なあったかなまちに

あったか協働都市

- 市民・議会・市の協働で、人を結び、心が通う、活力とやさしさを備えたあったかなまちに

